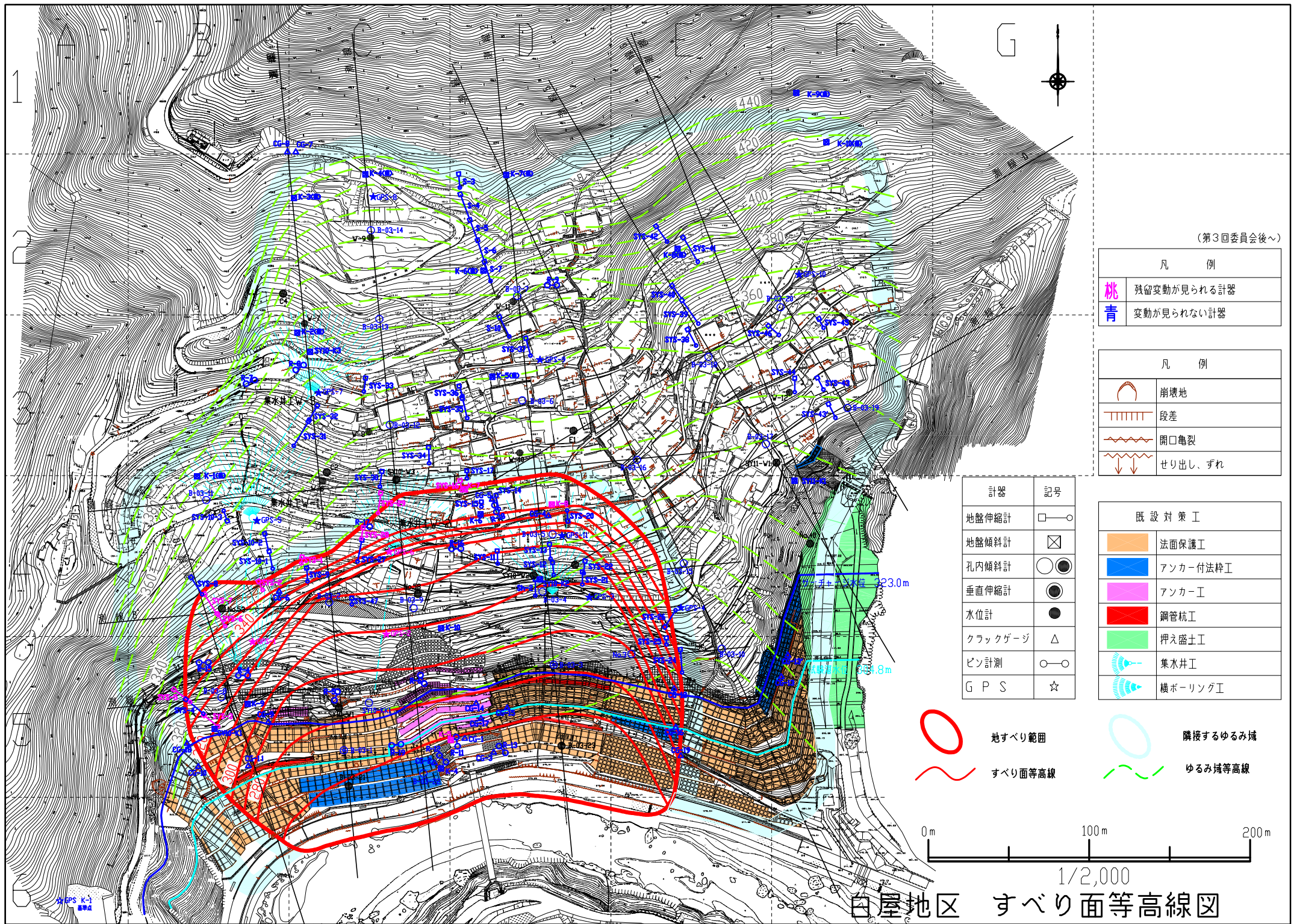


V．地すべり機構と湛水後の変動予測		
事 項	要 点	備 考
	地すべり機構と今後の湛水に伴う予測は以下のとおりと考えられる。 1) 地すべりの機構 地盤の緩み域である緩斜面のうち、すべり面等高線図に示すように、川側に近い幅約 300m、奥行き約 200m の範囲で、最大深さ約 70m、推定土量約 200 万 m³ が、湛水に伴い地すべりを生じた。 斜面方向のすべり面は 1～3 測線の断面図に示すように、川側に傾斜した緩み域下限付近に形成され、せん断的な変位を生じた。ただし、地すべり頭部では地盤の緩み域内で破壊が生じたが、明確なせん断変位は認められていない。 上下流方向のすべり面は A～C 測線の断面図に示すように、下流で浅く上流で深い非対称の形状となっている。地すべりの変位はこれを反映して、すべり面が浅い下流側で大きく、深い上流側で小さくなっている。 2) 緩み域の運動 地すべりブロックに隣接する緩み域は、幅 400～500m、奥行き 200～400m で、深さ 50m～70m と推定される。ここでは、地すべりブロックの変位により生じた地盤内の亀裂を埋めるように、若干変形が発生した箇所があるが、すべり面に相当するせん断変位は生じていない。 3) 今後の湛水に伴う予測 今後、湛水を実施した場合には、地すべりブロックが再活動することは避けられない。また、緩み域については、地すべりブロックが活動した場合にはその影響で変形が生じる可能性がある。したがって、再湛水までには地すべり対策を実施する必要がある。 なお、地すべりブロックに隣接する緩み域は、地すべり対策を実施することで安定化できるが、今回の地すべり運動に伴う地盤内部の亀裂を埋めるような変形は、長期にわたって継続する可能性がある。	



(第3回委員会後～)

凡 例	
桃	残留変動が見られる計器
青	変動が見られない計器

凡 例	
	崩壊地
	段差
	開口亀裂
	せり出し、ずれ

計器	記号
地盤伸縮計	
地盤傾斜計	
孔内傾斜計	
垂直伸縮計	
水位計	
クラックゲージ	
ピン計測	
G P S	

既 設 対 策 工	
	法面保護工
	アンカー付法枠工
	アンカー工
	鋼管杭工
	押え盛土工
	集水井工
	横ボーリング工

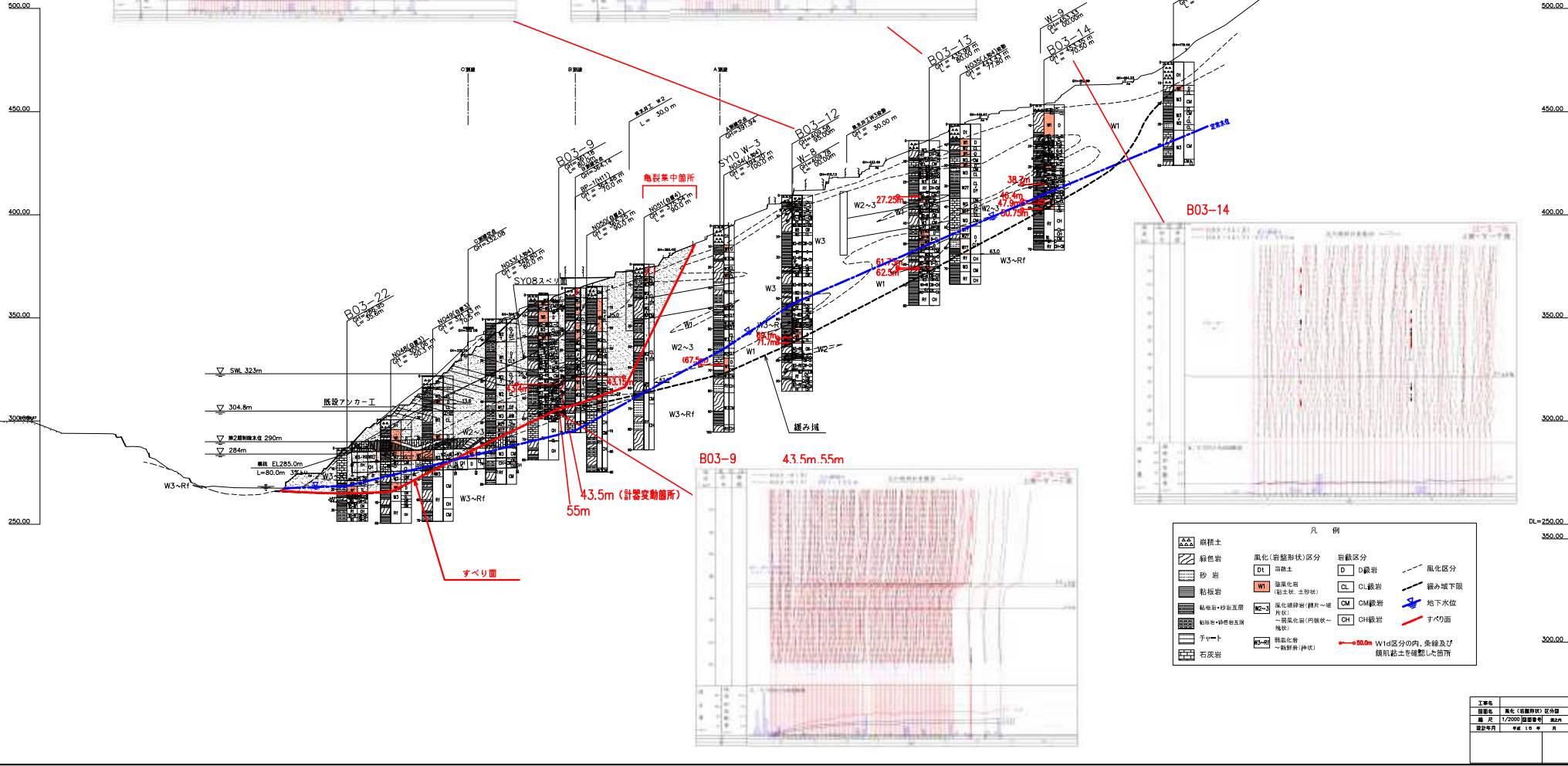
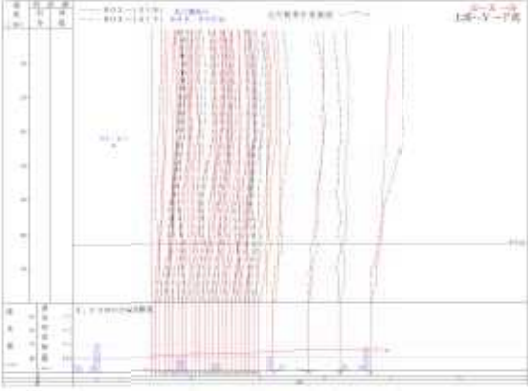
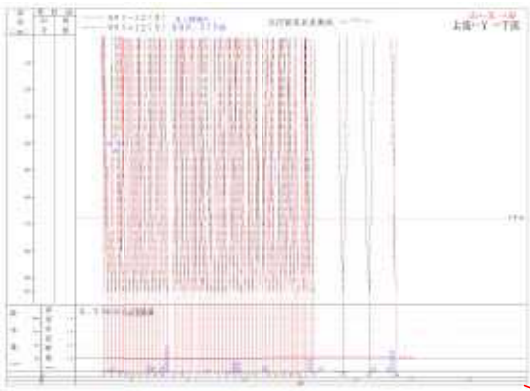
	地すべり範囲
	すべり面等高線
	隣接するゆるみ域
	ゆるみ域等高線

風化（岩盤形状）区分（1測線）

S=1:2,000

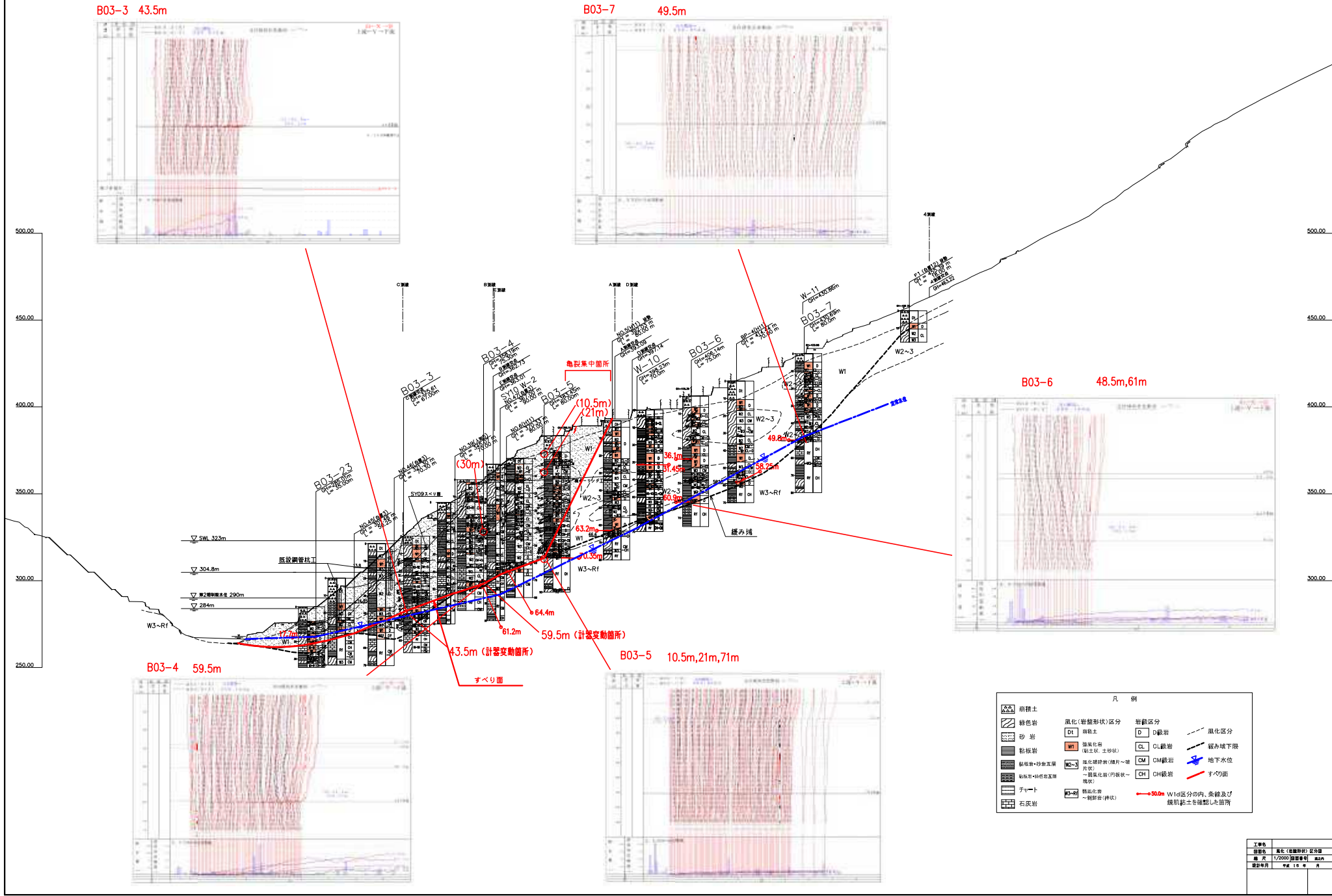
B03-12

B03-13



凡 例			
	腐植土		風化(岩盤形状)区分
	砂岩		D1 腐植土
	粘板岩		W1 腐風化岩 (粘土状、土砂状)
	粘板岩・砂岩互層		W2-3 腐風化岩(砂片〜塊 片状)
	粘板岩・砂岩互層		W3-4 腐風化岩(円板状〜 塊状)
	チューブ		B3-22 腐風化岩 (砂状)
	石灰岩		D2 腐風化岩
	砂岩		CL 腐風化岩
	粘板岩		CM 腐風化岩
	粘板岩・砂岩互層		CH 腐風化岩
	腐植土		風化区分
	砂岩		緩み境下層
	粘板岩		地下水位
	粘板岩・砂岩互層		すべり面
	チューブ		亀裂集中箇所
	石灰岩		すり面

風化（岩盤形状）区分（2 測線）
S=1:2,000

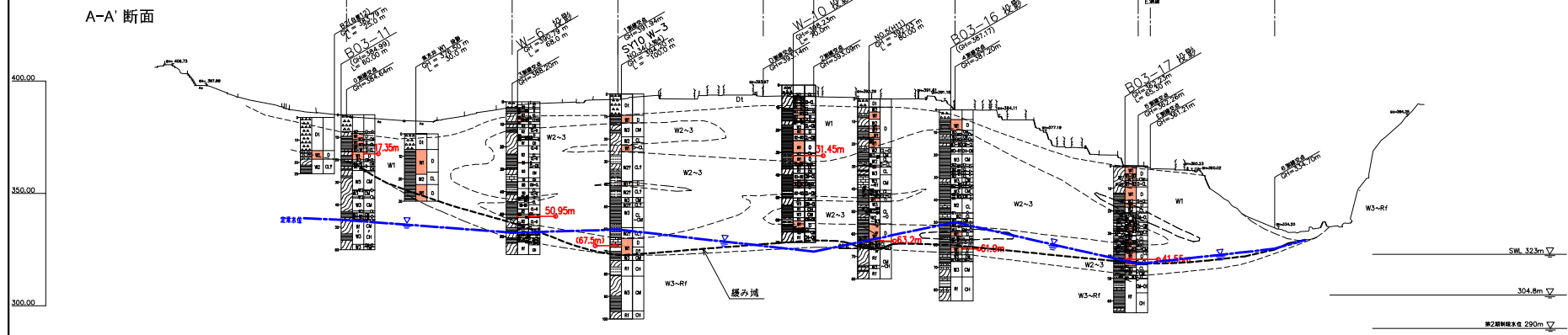


S=1:2,000

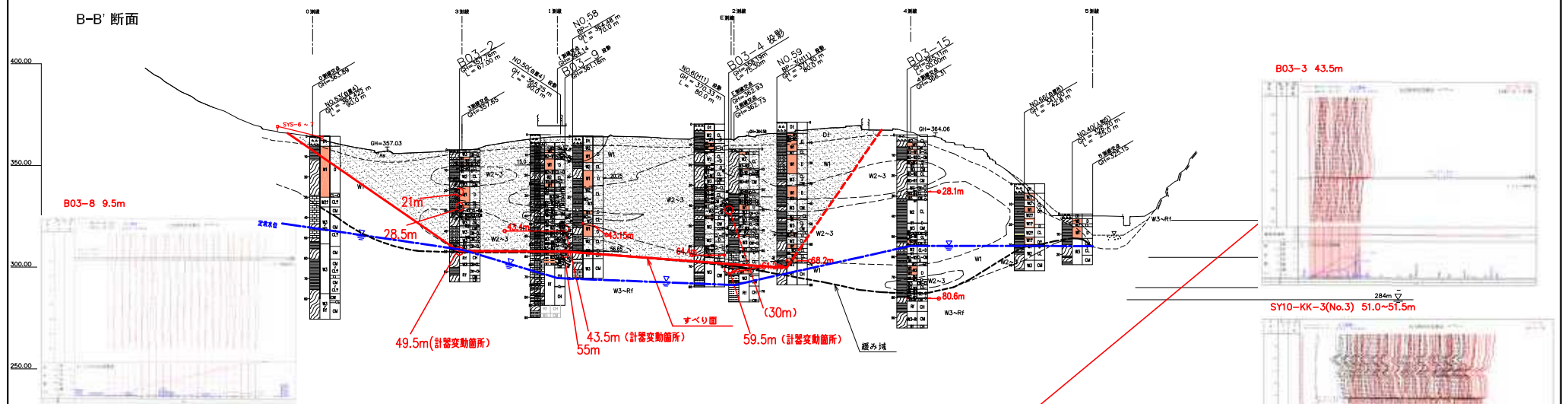


風化（岩盤形状）区分
（A測線、B測線、C測線）
S=1:2,000

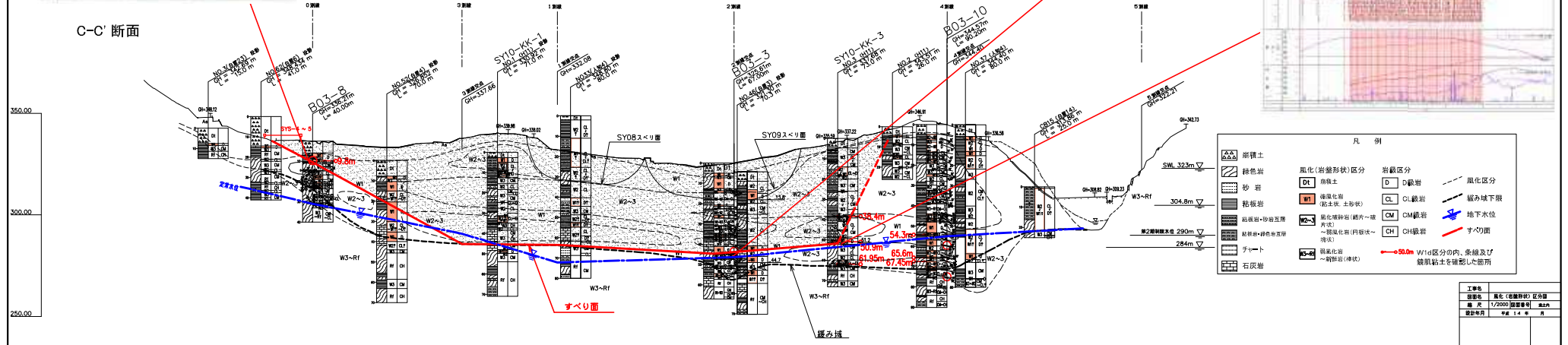
A-A' 断面



B-B' 断面



C-C' 断面



凡 例

- 原積土 - 緑色岩 - 砂 岩 - 粘板岩 - 粘板岩・砂岩互層 - 粘板岩・砂岩互層 - チート - 石灰岩	風化（岩盤形状）区分 - D1 腐蝕土 - W1 腐蝕土（土形状） - W2-3 腐蝕土（砂片・破片状） - CH 腐蝕土（内形状・塊状） - W3-Rf 腐蝕土（塊状）	岩盤区分 - D 粘板岩 - CL 粘板岩 - CM 粘板岩 - CH 粘板岩	- 風化区分 - 緩み域下限 - 地下水位 - すべり面 50.0m W1d区分の内、条線及び緩み粘土を通過した箇所
--	--	---	--